

## 2024 年度 地球環境基金 助成金交付要望書（抜粋）

日本水循環文化研究協会

活動メニュー	ひろげる活動	活動年数	3年
タイトル	都市貧困地区における水・衛生施設の持続的管理に向けたコミュニティの能力形成		
活動概要			
<p>都市貧困層コミュニティにおいて、持続的な衛生環境を形成するためには、給水設備や共同トイレといった関連施設が機能し、住民一人ひとりが衛生行動を持続できることが要件となる。このためには、住民が施設を適正に使用し、管理を担うコミュニティ組織（以下 Community-based organization : CBO という）による適正管理が求められる。提案団体は、先行活動において、住民に衛生行動の定着ならびに施設の適正利用を促し、女性メンバーを主体に CBO を結成してきた。</p> <p>しかしながら、その後の状況をフォローするなかで、設備の故障等の発生への対処を CBO が決定することが難しく、その意思決定能力、管理能力の形成が課題となっていることが分かった。こうした能力形成の失敗は、関連施設を計画する段階からのコミュニティの関与が限られていたことに起因していると考えられる。</p> <p>提案活動では、現状の問題に対する解決策を選択する段階から、当事者であるコミュニティの積極的参画を促すなかで、意思決定能力を形成する。自らが意思決定に参加し、選択した施設改善等を実践する。そして、CBO の形成にあたっては、コミュニティの特性に応じたメンバー構成、運営方法を自ら定める。</p> <p>さらに、個々のコミュニティ単位での管理に伴う弱点を克服し、都市貧困層コミュニティの衛生環境の持続可能性を向上するため、CBO のネットワーク化による協力関係の形成について、実践を通して、その有用性を明らかにする。</p>			
上位目標			
都市貧困層コミュニティにおいて、住民の衛生行動が定着し、衛生的な生活環境が持続可能となる。			
アウトカム（上位目標の実現に寄与する望ましい成果）			
<p>1) 衛生的な生活環境に必要な水・衛生施設の機能が維持され、コミュニティ住民の衛生行動が定着する。</p> <p>2) 衛生的な生活環境を持続可能なものとするを担うコミュニティ組織の能力が向上する。</p>			
活動内容			
活動1：コミュニティの主体的参加・意思決定による水・衛生施設の改善			
1-1 ベースライン調査			
1-2 衛生行動を考えるワークショップの実施			
1-3 衛生行動を定着するための施設計画立案			
1-4 水・衛生施設の導入			
1-5 水・衛生施設導入マニュアル・ワークショップ教材の編集			
活動2：コミュニティ組織による水・衛生管理システムの構築と実践			
1-1 水・衛生管理システムの構築			
1-2 コミュニティ組織づくりと管理体制の構築			
1-3 水・衛生管理システムの実践とモニタリング			
1-4 エンドライン調査			
1-5 水・衛生管理システム構築に関わるマニュアル編集			
活動3：コミュニティ組織のネットワーク形成			
1-1 個別のコミュニティ組織による管理上の課題抽出			
1-2 コミュニティ組織のネットワーク形成に関するワークショップ実施			
1-3 ネットワーク活動の試行			
1-4 ネットワークづくりに向けたセミナー開催			